



# 第31回自由学園音楽会

2018年11月20日 [火]

東京芸術劇場・大ホール

## プログラム

### 1. 合唱 初等部4・5・6年

大田 桜子 (山村 もも 詞) 「How wonderful living together! (生きてるってすばらしい)」

ミマス (富澤 裕 編) 「天の川のひとしづく」

指揮 堀内 響子

Pf. 佐藤 翠

### 2. 合唱 女子部中等科

フォーレ 「小ミサ曲」～Ⅰ.キリエ Ⅱ.サンクトゥス

指揮 永野 馨

Org. 佐々木 順子

### 合唱 女子部中等科・高等科

横山 潤子 (岸田 衿子 詞) 「南の絵本」

Pf. 中崎 真歩 (高等科1年)

### 3. 合唱 男子部中等科

ブリテン 「キャロルの祭典」op.28~ 6. この赤子が

指揮 武田 若菜

Pf. 阿左美 芭玖 (中等科2年)

村松 崇継 (Miyabi 詞) 「いのちの歌」

Pf. 佐々木 順子

### 合唱 男子部中等科・高等科

信長 貴富 (一倉 宏 詞) 「こころようたえ」

指揮 羽山 晃生

### 休憩

### 4. 合唱 男子部グリークラブ

エセンヴァルズ 「スターズ」

指揮 羽山 晃生

### 5. 吹奏楽 中等科・高等科・最高学部

ホルスト 「吹奏楽のための第1組曲」op.28-1

Ⅰ. シャコンヌ Ⅱ. インテルメッツォ Ⅲ. マーチ

指揮 佐伯 正則

### 休憩

### 6. 弦楽合奏 中等科・高等科・最高学部

パーセル (ブリテン 編) 「シャコニー」

指揮 梅田 俊明

### 7. 合唱 高等科・最高学部・管弦楽・リビングアカデミー

ヘンデル オラトリオ「メサイア」～

指揮 梅田 俊明

No.1 序曲

No.4 合唱「こうして主の栄光があらわれ・・・」

No.11 合唱「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた ...」

No.16 アリア「シオンの娘よ、大いに喜べ ...」

Sop. 武田 若菜

No.21 合唱「まことに彼はわれわれの病を負い ...」

No.22 合唱「彼の打たれた傷によって ...」

No.23 合唱「われわれはみな羊のように迷って ...」

No.34 アリア「ああ美しいかな ...」

Sop. 永野 馨

No.39 合唱「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は ...」

No.43 アリア「ラッパが響いて ...」

Bs. 羽山 晃生

No.47 合唱「ほふられた小羊こそは ...」

No.48 合唱「アーメン」

Ob. 村山彩希 澁谷哲久 Fg. 亀山泰良 Trp. 織田陵平 石塚龍吾 Timp. 木村 翠 Cemb. 関口美彩江 Org. 佐々木順子

## ごあいさつ

自由学園音楽会にお越しくださりありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

自由学園は「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」という教育理念のもと、一人の人の頭と体と心が調和をもって育ってゆく人間教育を目指しています。生徒たちは、教科の学びに加え、音楽、美術、体操、登山など、様々な本格的な体験を伴う学びに取り組みますが、これらの体験を、一人ひとりの好き嫌い、得意不得意に関わらず、全員で共にするところに自由学園の学びの一つの特徴があります。

そこには苦勞も生まれますが、自分の好みや判断によって学びを選択していれば、今回のような会場で心を合わせて歌い演奏する喜びも決して体験することがなかったという生徒はたくさんいるに違いありません。また仲間と共に力を合わせることの喜びも人生を豊かにする財産になるはずです。感性豊かな若い時期に、人格の土台となる人間の生地を織り上げる人たちの成長には、様々なよい体験が必要です。

近年社会全体の傾向として、目に見える成果や利益を短時間で求める傾向が強くなっているように思いますが、残念なことにこの動きは教育にも及び、実利実用に役立つ内容が重視される傾向にあります。このような時代にあって、「芸術によってのみ育ちうる人間性がある」（羽仁吉一）、「実利実用ではない芸術味の分かる人を育てたい」（羽仁もと子）という創立者の教育への思いは、ますます意義深いものと感じられます。

2010年、2014年に続き、梅田俊明先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただきました。今日まで導いてくださった先生方の熱心なご指導に、心からの感謝を申し上げます。また東京芸術劇場で開催できますことも嬉しくありがたく思っています。

今回の合唱曲の「メサイア」は、音楽によりキリストの生涯を描いた作品です。生徒たちは長い練習期間を通じて、ヘンデルが音楽を通じて表現した、イエスの受難と復活、そして私たち人類の救いの喜びと希望のメッセージを体感してきたということが出来ます。私はこのことの価値の大きさを感じています。

音楽会のすべての演奏とこれを支えるすべての働きが、今を生きる生徒たちの喜びの表現、いのちの表現となることを、そしてクリスマスを前に、神様に喜ばれる捧げ物となりますようにと願っています。

## 曲目について

### 1. 合唱 初等部 4・5・6年

「心をこめて」表現することを初等部生の音楽会の目標としました。合唱によって心と体をつなぐことはとても難しく、うまくいくことばかりではありませんでしたが、積極的な取り組みがたくさん見られました。自分の発した声が、まわりの友だちの声と重なり合って一つになります。その楽しさ、喜びをもって練習に励みました。

曲調の異なる2曲をそれぞれ違った表現で伝えられるように、自分たちでよく考えました。オープニングの曲でもある「How wonderful living together！（生きてるってすばらしい）」は、勢いをもって気持ちよく歌うことを大切にしました。間奏がない分、より集中力とエネルギーが必要になります。「天の川のひとしづく」は、作者のお子さんへの強い思いが感じられる曲です。落ち着いて一つ一つの言葉をていねいに表現できるように心がけました。「いのち」の尊さを感じて、生命力にあふれた合唱になることを目指して歌います。

堀内響子 佐藤 翠

### 2. 合唱 女子部中等科

中等科は、G.フォーレ作曲「小ミサ曲」を歌います。フォーレは「近代フランス音楽の父」と呼ばれる作曲家で、伝統を受け継ぎながらも新しいハーモニー感覚を取り入れ、洗練された美しい曲を数多く生み出しています。

「小ミサ曲」は、「キリエ」「主よ、あわれみたまえ」、「サンクトゥス」「聖なるかな」、ベネディクトゥス「祝福があるように」、「アニュス・デイ」「神の小羊」の4曲から成っています。

本日は全4曲の中から「キリエ」、「サンクトゥス」の2曲を歌います。普段の授業では微妙なハーモニーの違いを全身で感じ取り、喜びを持って表現することを目指してこの曲に取り組んできました。合唱を支える楽器はポジティブ・オルガン（移動可能な小型のパイプオルガン）です。本番で、生徒たちの声とオルガンが織り成す響きがホールに満ちるように、と願っています。

佐々木順子

### 合唱 女子部中等科・高等科

私が「南の絵本」を初めて聴いた時、「絵本のページがめくられていくような音楽」と心を打たれ、この曲の虜になりました。「音が聴こえるような詩」、「絵が描かれるような音楽」を中高生に是非表現して欲しいと思い、音楽会の曲として選びました。

作詞の岸田衿子さんは自由学園出身の女優、岸田今日子さんのお姉様であり、ご自身は東京芸術大学油絵科で学ばれ、浅間山麓の豊かな自然の中で絵や詩を書かれていたそうです。溢れる情報に翻弄されて生き急ぐ昨今の私たちに、この詩は安心した気持ちになるように語りかけてくれます。

まるで情景が見えるような曲を作ってくくださった横山潤子さんが10月末にご来校くださり、直接生徒たちがお話を伺う機会が実現しました。幾重にも重なった声部が追いかかけ合い、そこへ伴奏ピアノが色や光を織り交ぜながら進んで行くこの曲に初めは戸惑いを隠せなかった生徒たちも、練習を重ねるうちに自分たちが思い描く絵を音で表現することができるようになってきました。

今日はホール全体の空間を大きなキャンパスにし、絵を描くように女子部中高6学年で気持ちを一つにして演奏します。

永野 馨

### 3. 合唱 男子部中等科

一曲目、ブリテン作曲「キャロルの祭典」より第六番目にあたるこの曲は、イエス降誕の本質的な意味を感じとらせ、たとえ小さな存在であっても平和のために闘えるという勇気と希望を貰える曲です。

二曲目は、村松崇継作曲、Miyabi(竹内まりやさんのペンネーム)作詩「いのちの歌」です。「本当に大事なものは隠れて見えない。」をはじめ、数々の大切にしたい言葉で綴られているこの曲を、元気一杯の中学生がどう咀嚼し表現するのか、しないのか、指示してしまうことは簡単ですが、それでは中学生が取り組む意味がありません。中等科のリーダーと各クラスのリーダーが中心になって、朝練習をしています。心の向かない人もあり、苦勞しています。大きなかけではありますが、最後の一日まで諦めずに、ひとり一人が今いる所からたとえ一歩だけでも前に踏み出し、思いを音にのせて歌う楽しさを味わってほしいと思います。

武田若菜

### 合唱 男子部中等科・高等科

「こころようたえ」は信長貴富作曲の有名な合唱曲です。音楽会リーダーが、男子部全員で歌う曲なので、全員で選曲をすることを提案し、歌いたい数曲の中から投票によって選ばれた曲です。

1992年就任当時男子学生はほとんど声を出しませんでした。私が26年間基本の理念に据えたことは、「全員で取り組む」こと。現在ではほとんどの生徒が取り組めるようになりました。決して美しい合唱ではありませんが、男子部生の「心の叫び」をお聴き下さい。

羽山晃生

### 4. 合唱 男子部グリークラブ

1992年から自由学園にお世話になり、1994年の練馬で初めて大音楽会を経験致しました。ここでの中等科の男声合唱が今の男子部の合唱の起源となります。あれから24年がたち、高等科を含めた形になり、4年前には大音楽会で、男子部全員で「鷗」を歌いました。その時の感動を胸に、有志でグリークラブを立ち上げました。全日本合唱コンクールへの参加、クリスマスや地域へのコンサートに出演。週一回の練習ですが、少ない時間を大切に励んでいます。幾多の試練を乗り越えて、本日エシエンヴァルズの「Stars」を演奏します。

指導者 武田若菜 関口美彩江

羽山晃生

## 5. 吹奏楽 中等科・高等科・最高学部

イギリスの作曲家グスターヴ・ホルストが作曲した「吹奏楽のための第1組曲」は1909年に作曲されたとされる名曲で吹奏楽の分野においてとても重要な作品です。ホルスト以前にもモーツァルト、メンデルスゾーン、ベルリオーズ等も管打楽器のための作品を作曲していますが、ホルストはととして考えられている楽器編成とほぼ同じ編成で作曲しました。構成は1楽章冒頭に低音楽器で演奏される8小節の主題が作品全体の柱になっていて、1楽章では主題が変奏され、2楽章のメロディは主題を基に派生したもの、3楽章のテーマは主題の反行形が基となっていて作品の統一感を作り出しています。自由学園の吹奏楽は高等科生・最高学部生による「ウインドオーケストラ」、女子部中等科生による「女子部アンサンブル」、男子部中等科生による「男子部プラス」の3つにわかれて活動していましたが、今年度より1つの団体として新たに活動をはじめました。各団体の人数減少やここ数年の「女子部アンサンブル」メンバーの意欲的な取り組み状況等を考え1つの団体として活動することにしました。新たな活動形態初年度で大変なこともありましたが、音楽史上初めて現代とほぼ同じ編成で音楽的に高度な技術が盛り込まれて作曲された吹奏楽のバイブルとも言われるこの作品を、新たな活動を始めたウインドオーケストラの第一歩として本日演奏いたします。ご来場の皆さんへ新生自由学園吹奏楽の響きをお届けできるよう、学生たちと舞台上上がりたいと思います。

指導者 Fl. 菅井春恵 黒沼千比呂 Ob. 澁谷哲久 Cl. 岡部麻美 Fg. 湯本真知子 Sax. 奈良美里  
Hr. 百瀬太智 Trp. 織田陵平 Trb. 梅野朋生 Euph. 会田智穂 Tuba 伊関愛里 Perc. 堀 正明

佐伯正則

## 6. 弦楽合奏 中等科・高等科・最高学部

オーケストラは一人ではできません。オーケストラに絶対に必要なものがあるとすれば、それは隣と一緒に弾いてくれる誰かの存在です。自由学園のオーケストラは、中等科生徒から最高学部学生まで、普段の生活も、これまでの経験も全く異なる人たちが集まって活動しています。もちろん性格も考え方も違い、また、小さな頃から楽器を弾いていた人もいれば、学園に入学してから楽器を始めた人もいます。そのような様々な個性の集まった合奏だからこそ生まれる音、お互いを生かし合ってこそ生まれる響きを大切に、演奏したいと思います。

最高学部4年 高橋信人

長い歴史を誇る弦楽合奏の教育は、それぞれの楽器ごと熱心に個人指導を続ける先生方に支えられています。生徒学生は一朝一夕では音も並ばない弦楽器を演奏する困難をそれぞれ乗り越えて、合奏する楽しさを感じられるようになりました。パーセルの厳格な変奏曲「シャコニー」は、ブリテンの表情豊かな加筆によって300年以上の時を越えて現代人に共感を呼ぶ素晴らしい作品です。夏の集中練習も含め数多くの合奏経験を経て、やっと指揮に頼り過ぎず自発的にアンサンブルすることに目覚めた彼らの演奏にご期待下さい。

指導者 Vl. 波多野せい Vla. 鈴木葉子 Vc. 浅野真知子 Cb. 赤池光治

梅田俊明

## 7. 合唱 高等科・最高学部・管弦楽・リビングアカデミー

この曲には昨年度から取り組んできました。英語の発音や曲の解釈がとても難しく、苦戦しながら歌っています。なぜなら、メサイアは中世の作品であり、キリスト教を信じてきた人々の歓びや哀しみ、祈りが旋律に乗せて歌われているのに対して、皆がそのように熱心な信仰を持っているわけではない私たちが、この曲とどう向き合えばよいのか悩んでしまうからです。

信仰を表現するのは難しいことです。この曲は音楽的にもレベルの高い曲ではありますが、キリスト教精神を生活の軸とする私たちの声で、私たちにしか表せない音楽を伝えられればと思います。

今は音程を良くするために練習法を考えています。この合唱の経験を通してチャレンジする心、みんなで一つのものを作る力をつけたいです。そして、4年に1度のこの舞台にひとり一人が全力で取り組み、楽しみたいと思います。

高等科3年 行場結佳 石田桃子 福富優一 服部 昂

合唱する機会が多い自由学園の日常にあっても、質の高い合唱を求められる「メサイア」に取り組むことはプログラミングから困難と葛藤の連続でした。メンバーが入れ替わることを踏まえて2年越しで練習することと、声を転がす高度な技術が求められる曲を最高学部生に委ねることで、この長大な楽曲からバランスよく抜粋する工夫をしました。合唱することの意味を見出せなかったり、理想を持ちながらも技術がおぼつかなかったり個々の取り組みも様々な中で、譜読みや古い英語の発音も容易ではありませんでした。しかしオーケストラと共に歌い続けるうちに連帯感やバランス感覚が芽生えて、ようやく音楽の喜びを実感しつつあります。東京芸術劇場のステージでその喜びが共有できれば更なる感動につながると信じています。

梅田俊明